

特集 産学官連携 プロジェクト

教育学部子ども学科
ICTモデル教室を設置
舞台芸術領域のこれまで

Master Artist

マスターアーティスト
人が人に触れること
舞台芸術領域 舞台プロデュースコース
音楽領域 ミュージカルコース
准教授 鳴海康平

NUA-Student

プレッシャーがあったほうが
伸びるタイプなんです
音楽領域 声優アクティングコース 3年
野崎ひらり (Hillary)

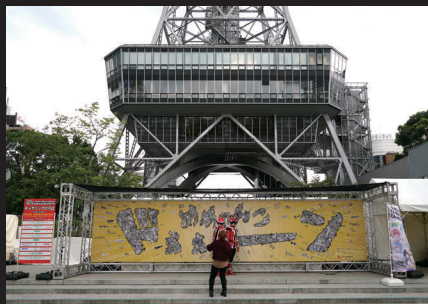
Information

- 西キャンパスの学生食堂が
リニューアルオープン!
- 名古屋芸大生夢サポート募金
活動状況



世界コスプレサミット

「世界コスプレサミット2022」にて、「名古屋芸術大学 presents レッドカーペットセレモニー」、「声優アクティングコース Live performance 2022」が行われ、名古屋芸術大学ウインドオーケストラ、名古屋芸術大学特別編成合唱団の生演奏や、学生のステージパフォーマンスが披露されました。またフォトパネルを制作し、多くのコスプレイヤーに撮影の背景として活用されました。



特集 産学官連携プロジェクト

本学は、大学・企業・政府や自治体等が協力しプロジェクトを行う「産学官連携」に積極的に取り組んでいます。

これまで、多くの企業、自治体等とたくさんのコラボレーションプロジェクトを行ってきました。芸術が社会にもたらす意義や活力は広く認知されるようになり、ますます重要性が高まっています。一般大学とは異なり、芸術大学は「ゲイジツのちから」を社会に提供していくことが大きな使命であり、また最大の特長だと考えています。この考えを踏まえ、地域や社会からの期待に応えるための専門部署「地域・社会連携部」を2020年に設置。こうした産学官の連携活動を通し、地域社会に貢献するとともに、学生が将来に向けてより多くの社会的な経験を積むことにもつなげています。地域・社会連携部が発足してからの2年間をプロジェクトを通して振り返ります。

芸術大学だからできること



いちのみや芸術商店街

国際芸術祭「あいち2022」に合わせ、会場の一つとなっている一宮市にて、「いちのみや芸術商店街」の企画・運営に参加、作品の展示を行いました。テキスタイルデザインコース、工芸コース、メタル&ジュエリーデザインコースの学生が制作した作品を一宮駅周辺や商店街に展示しました。



地域・社会連携部長
田中 聡

地域・社会連携部が発足して既に2年が経過しました。初年度はコロナ禍の真っ只中での部署立ち上げとなりましたが、今年に入り、コロナと向き合いながら社会活動を継続しようとする流れが定着しつつあります。コロナ禍以降、休止やオンライン実施に追い込まれていたものがリアルに行われるようになるなど、イベント等催事の実施についても活性化や露出の機運が顕著に高まっているように感じています。

今後18歳人口が減少していく中、大学は単に教育機関に留まるのではなく、地域や社会に対して果たすべき役割や意義を見据えて、より存在感を高めていくことが求められています。その為に地域・社会連携部では企業や自治体等、多彩な連携先と多くの事業や催事等の実施により、本学の社会的価値向上に努めています。

但し、大型イベントや大きな事業の実施に関わることは勿論大事な事なのですが、一方で地元自治会のお祭りや子ども食堂のボランティア協力など、地域に根差した草の根的な地域貢献の積み重ねも、大学の社会的責任を果たし、その存在や価値を認めていただく上で非常に重要な活動だと思っています。

またそうした学外からの連携事業のご依

頼を頂くことは、参加していただく学生の皆さんにとっても経験値を積み、教育的価値が得られる貴重な機会です。本学は演奏やデザイン、美術を志すアーティストを育成する芸術大学です。これはあくまで個人的な考えですが、卒業後の進路として、一般企業等への就職は勿論ですが、芸大という立場において演奏家や芸術作家など、アーティストとして身を立てる道筋も示すことは非常に重要なことだと考えます。演奏や作品など、様々な「ゲイジユツのちから」によって社会に対して働きかけ、その対価を得る機会を創出することも地域・社会連携部の重要な役割です。社会との繋がりを通じて経験を積み、芸術の学びを通して人と社会の可能性を追究したり、様々なキャリアモデルとなる人と接することで自分の将来へと繋げていって欲しいですね。

mozo ワンダーシティ



森のがっこう

名古屋市西区 mozo ワンダーシティでは、連携イベント「森のがっこう」を開催。建材や家具、紙の原料として生活に欠かせない「木」を通して、森林のことを考え、木を身近

に感じる展示やワークショップなどを行いました。スペースデザインコースの学生が制作した家具を展示したり、デザイン領域の学生が受講する「デザイン・ワークショップ」

の授業で提案されたさまざまなワークショップを開催し、多くの来場者に楽しんでいただきました。



ららぽーと名古屋みなとアクルス

安全祈願お守りワークショップ

「おとうさんの安全をいのって作る、お守りワークショップ」と題して、コミュニケーションアートコースの学生が手作りしたお守り袋を準備し、思い思いのメッセージやデコレーションを凝らしたお守りづくりを手伝いました。



ジェイアール名古屋タカシマヤ

絵本の読み聞かせ&ワークショップ

教育学部は絵本の読み聞かせ、歌や手遊びを、アートクリエイターコースは木の葉のキーホルダーやチャムを作るワークショップを子どもたちと楽しみました。同時に、日本画コース、洋画コース、アートクリエイターコースによる「リトル・ミュージアム」と題した作品展示も行いました。



△ × 公益社団法人 自動車技術会デザイン部門委員会



二輪デザイン公開講座

公益社団法人自動車技術会 デザイン部門委員会が主催する「第10回 二輪デザイン公開講座」が、2022年9月1日(木)・2日(金)の2日間、本学カーデザインコースの協力で

西キャンパスにて開催されました。ホンダ、ヤマハ、スズキ、カワサキの4メーカーで活躍するデザイナーが講師となり、二輪デザインの開発過程を体験するワークショップや、

各メーカーのデザイナーによる開発プロセスや二輪文化に関する講演、公開講座出身OB座談会などが行われました。



△ × 蔦kids大学(蔦屋書店)

おはなし会& ステンシルbookカバー作り

教育学部のボランティアグループ「みつば」による、絵本の読み聞かせとパネルシアター、手あそびや歌あそびを参加した子どもたちと楽しんだ後、ステンシルブックカバーを作りました。



△ × 中日新聞

2022年参院選向けコンテンツ制作

メディアコミュニケーションデザインコースでは、中日新聞デジタル編集部から参院選特設サイトのためのコンテンツ制作の依頼を受け、投票を啓発するために2022年参院選向けのポスターと中日新聞参院選特設サイト用のタイトルロゴやバナーを制作しました。





ミュージアムグッズ提案

テキスタイルデザインコースとメタル&ジュエリーデザインコースによる「デザインプロデュース」「地域プロジェクト」は、デザイン・美術を工芸の観点から地域の産業と人

をつなげ生活を豊かにするものを考え制作するという講義で、名古屋市千種区の古川美術館・分館爲三郎記念館のミュージアムショップで販売するグッズのデザインプロデ

ュースを行いました。提案したアイデアを記したボードと試作品を展示したほか、作品の一部はキーホルダーやシールとして商品化、ミュージアムショップで販売されています。



お香文化を楽しむ 新しい道具のデザイン開発

「香源プロジェクト」と題し、お香文化の歴史や伝統を踏まえつつ、現代の生活にマッチした香源ブランドの新商品コンセプトを提案するプロジェクトにインダストリアル&セラミックデザインコースが取り組みました。



フードドライブ事業 ポスター制作

賞味期限の切れていない食品を回収し、子ども食堂など食糧支援につなげる「フードドライブ事業」のポスターをデザイン領域の学生が制作し、食品の回収を行うボランティアへ参加したほか、食品廃棄に関するデータのパネルも制作・展示し、食品ロスに関する啓蒙活動が行われました。





デジタルツーリズム

鯨バス株式会社と先端メディア表現コースの共同研究として、「withコロナ時代の新"旅体験"モデル」のコンテンツ制作を行いました。コロナ禍で落ち込む観光業の回復

と新しい観光のあり方を模索し、東海地区の特性を生かした産業観光の魅力、またそこで働く人にもスポットを当て、新たな体験価値を提供できるデジタルツーリズムの創

出をすることを目的に、映像とネットワークを使ったインタラクティブなコンテンツを制作しました。



池田町レンタサイクル モデルコースマップ制作

岐阜県池田町、地域創生のコーディネート事業を行う(株)OKB総研とデザイン領域がコラボレーションし、「池田・揖斐川レンタサイクル」を活用したモデルコースマップを制作しました。



ザ・ベストテンコンサート

1970年代から90年代の日本の歌謡曲を中心とした往年のヒット曲を、音楽領域の学生と卒業生が演奏し、歌とダンスでお届けするイベントです。これまでに北名古屋市や一宮市、小牧市、津島市、高山市等で開催し、多くの皆様に親しまれています。

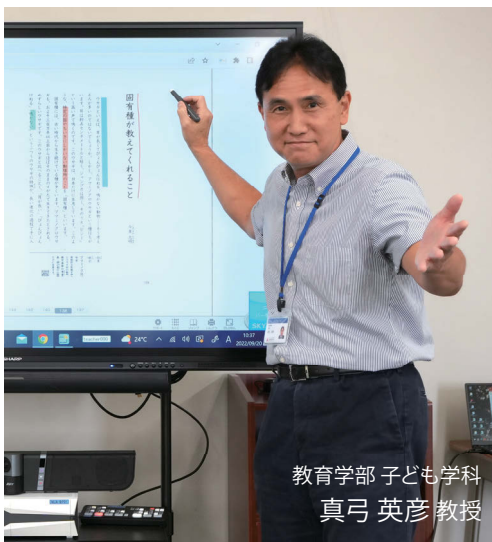




取材にご協力いただいた(左より)川島さん、高橋さん、西田さん、服部さん、半谷さん、ありがとうございました。

教育学部子ども学科 ICTモデル教室を設置

社会のデジタル化が進む中、教育現場でも先端技術の効果的な活用が求められています。今年度から教育学部にも「子どもICTコース」が設置され、東キャンパス1号館501教室をICT教育モデル教室として整備しました。ICTを活用した模擬授業や、オンライン配信のための設備、クロマキー合成映像などを作成することができるコンテンツ作成のための設備を備え、今後、さまざまな演習や研究に活用できるようになります。



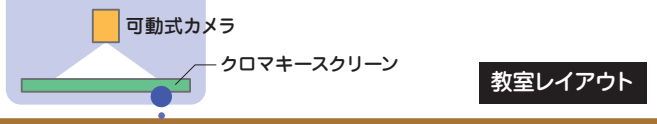
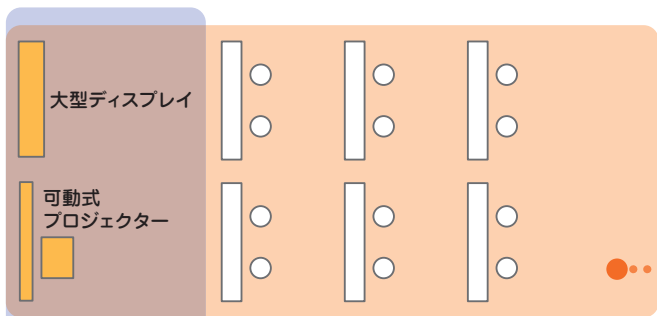
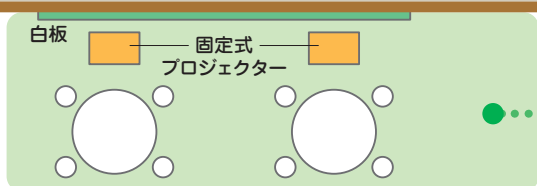
教育学部 子ども学科
真弓 英彦 教授

ICT教育について、真弓教授に伺いました

この教室では、協働学習、一斉学習と個別学習、コンテンツ作成の3つのことが模擬授業として体験できる設備が整っています。最初に使うのはデジタル教科書だと思います。最近ではほぼ全ての学校で導入されています。北名古屋市の小学校で使われている教科書会社のものをベースに、各教科を揃えています。電子黒板を使い、従来通りの一斉学習のスタイルで模擬授業を行います。もう一つ、プログラミングも大切だと思います。プログラミングに触れてこなかった学生もたくさんいますので、まずは自分が使ってみてどんなことができるか、それ

を体験するところからやっていきます。その上で、それを小学生にどう指導すれば良いか、また、どうすればほかの教科の中にプログラミングを組み込んでいけるか、そんなことを考えていく授業にしたいと思います。具体的な授業として模擬授業の演習も行いますが、社会のデジタル化が進んでいく中で、これからの教育や教員のあるべき姿みたいなものを考えていきたいです。

2020年度から小学校でプログラミング教育が必修化され、あわせて「GIGAスクール構想」もスタートしましたが、新型コロナウイルス感染拡大により、ハードの整備は



教室レイアウト

協働学習ゾーン



- 電子黒板(プロジェクター)、タブレット
- 協働学習ソフトウェア(SKYMENU、ロイロノート等)

白板と2台のプロジェクター、丸テーブルを備え、右側と左側、2グループで協働学習を行うことができます。

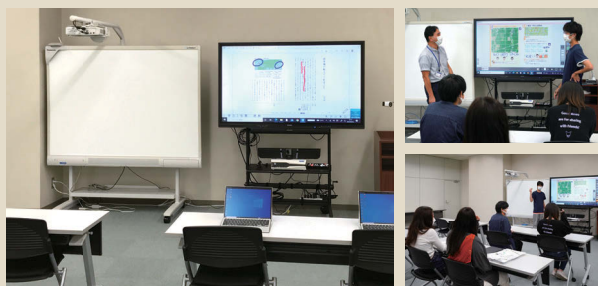
コンテンツ作成・遠隔授業ゾーン



- デスクトップ端末
- 映像配信装置(スイッチャー、書画カメラ、ステレオマイク等)
- クロマキースクリーン
- サウンドバー(カメラ&マイク/スピーカーユニット)

オンライン授業の配信と、単なる配信だけではなくグリーンバックでクロマキー合成映像の制作もできるようになっています。

個別学習・一斉学習ゾーン



- 電子黒板(大型ディスプレイ)、デスクトップ端末、タブレット
- デジタル教科書
- 個別学習ソフトウェア(ペンまー等)
- プログラミング教材(アーテックロボ、MESH、WeDo等)

これまで通りのスタイルの模擬授業や、電子黒板を使ったデジタル教科書や個別学習のソフトの利用、プログラミングの学習なども可能です。

この2年間前倒しで進みました。この環境を利用するためのソフト面が整わず活用できていないのが現状です。今はまだ、子どもの学習具、教員の教具として活用されるにとどまっています。私は、その先を考えて欲しいと思っています。ICTを使った学習では、これまで把握するために時間のかかったひとりひとりの意見を瞬時に見ることができ、また子どもたちもこれまで知ることができなかったほかの友達の意見を見ることができるようになり、自分の意見を持ったり、発言したりできるようになったという効果が示されています。データの蓄積も簡単に

なり、活用もしやすくなります。これまでわからなかったことがわかる、子どもたちひとりひとりの成長が見え、教員も成長していけるような、そういった活用ができないかと思っています。

ICTコースでは、授業だけでなく、教育現場を支援するスキルも学びます。10年ほど前から、学校でICT教育を推進するための実務的な支援を行うICT支援員という仕事があり、まだまだ人員的に大きく不足しています。国家資格であるITパスポートとともに、現場でトラブル対応などできるICT支援員まで育成できればと考えています。

「GIGAスクール構想」とは？

2019年12月に文科省から打ち出された5年間の計画。子どもひとりひとりの個性に合わせた教育の実現、さらに教職員の業務を支援し教職員の働き方改革も目的のひとつとなっています。

- 1人1台の端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する
- これまでの我が国の教育実践と最先端のベストミックスを図ることにより、教員・児童生徒の力を最大限に引き出す



2022年8月「陰翳の住処を探して」



舞台芸術領域のこれまで

2021年4月の開設以来、舞台芸術領域開設記念事業として、2021年8月「Peeping Garden | re:creation」(月灯りの移動劇場)、2022年3月「家族のための音楽劇／ストラヴィンスキー 兵士の物語」、「演劇／第七劇場 oboro」、記念シンポジウム「これからの舞台芸術」と演劇、ダンス、音楽とさまざまなジャンルを横断する公演を舞台芸術領域では提供してきました。そして2022年8月には、第1期生の学生がプロデュース、音響、照明、舞台美術を担当したダンスと音楽による公演「陰翳の住処を探して」を上演。1年間の学びの成果を早くも形として発表しました。

コロナ禍という想像すらできなかった好ましからざる状況での船出でしたが、逆境の中でも人間が身体を使って表現する「舞台」という場の意味を問いかけるような活動が続いています。舞台芸術領域のこれまでを振り返ります。

よく話し、よく考える

—舞台芸術領域の学生は音楽領域とも雰囲気が違うし、もちろん教育学部とも違います。東キャンパスではちょっと異色の存在という気がします。第1期生として1年を経てどんな印象ですか？

舞台芸術領域
主任
梶田美香 教授

考えることが好きで、わりと硬い話題でもしっかりと議論できる学生が多いと感じています。私は舞台プロデュースコースで文化政策の授業を担当していますが、法律や政策などの硬い内容は辛いだろうと心配になる時があります。でも、ある時、授業内で「文化と芸術の違い」についてクラス全体でディスカッションをしたところ、90分では足りないくらい白熱した授業になりました。学生にファシリテーター希望者を募るとすぐに手が挙がり、積極的に務めてくれました。その後、「もっとディスカッションをやりたい」と要望が出

たため授業の枠を調整し、「公平と平等の違い」について90分のディスカッションをしたのですが、この時、どんなテーマがいいかを事前に募ったところ、「公平と平等の違い」のほかには「安楽死」が挙がったりしていました。このことからわかるように、シリアスな社会問題にも関心を持ち、自分なりの価値観をもっている、考えること好きな学生が多いように思います。

それからもう一つの特徴としては、創ることが好きということがあります。互いに協力して創っていくことが好きな学生が多いような気がしています。「陰翳の住処を探して」のときにはこの特徴が功を奏し、授業外で学生に意見を求めても、きちんと答えてくれて心強く感じました。協力して舞台を創るという目的に向かう時には、物怖じしないで意見を出す学生が多いかなと思います。





2022年3月「演劇／第七劇場 oboro」



2022年3月
「家族のための音楽劇／
ストラヴィンスキー 兵士の物語」



2021年8月「Peeping Garden | re:creation」(月灯りの移動劇場)

安心してチャレンジして

「陰翳の住処を探して」は、入場無料だったんですね。

舞台プロデュースコースの専門である広報力や券売力ということに対しては学びが不十分ですから、まだ有料公演は難しいと思っています。初めの一步の時期には、まずはそういったプレッシャーを外して公演を創ることが重要です。経験を重ねていくうちに、公演の対価をいただく、そのために広報活動しようなどの発想が出てきます。広報活動は公演内容が確定する前から始めなければいけないので、企画者として公演のコンセプトをしっかり決めておくことや、制作者としてチラシを製作するデザイナーに公演コンセプトを正確に伝えることなど、いろいろと経験することになると思います。そういった過程で、まだ形のない概念としての公演コンセプトを言語化することや、言語化したものをビジュアル化することを経験し、その結果

として人の行動に繋げていく道筋を知ることになります。観ていただく方に時間とお金を使っただけでなく、少しでも多くの方に体験してもらいたいです。そして、予算計画を立て、券売の成果を実際の収支として考えるためには、「なぜ、この公演をするのか」という公演コンセプトを再考することも出てくるでしょう。そうした思考の循環やバランスを舞台プロデュースコースの学生は理解していかなければなりません。舞台空間というフレーム、お客さまの興味関心というフレーム、予算という金銭的なフレームなど、いろいろなフレームの中で創る舞台芸術は、溢れ出る創造的な発想をフレーム内に収めていく必要があり、難易度の高い創意工夫が求められます。しかし、その創意工夫にこそ見出すことのできる喜びを、学生たちにはぜひ感じてもらいたいです。4年間でどこまで力をつけられるか、期待しています。

フレームの中で 創意工夫するのが舞台

コロナ禍で舞台関係者は苦労していると思いますが、舞台の意義や今後についてはどのように思われますか？

舞台関係者は劇場公演のための舞台芸術作品を創ることが中心軸ですが、それは社会的にはどういう意味を持つことなのかと、特にコロナ禍以後には考えるようになりました。そもそも舞台芸術公演が行われる劇場は、欧州などでは社会の中で人々が立ち止まってものを考える場所という通念があるように思いますが、日本はまだ劇場に対してそういった感覚は持たれていません。これまでは良いものを創って観ていただくことを最大の価値と考えてきた部分がありましたが、劇場が立ち止まって考える場となり、そのきっかけとなる舞台芸術公演であって欲しいと考えるようになりました。

また、今後、大きな話題になっていくと研究者として感じている分野は、芸術と労働の関係性です。私も演奏者の時代はそうでしたが、芸術に携わる人は芸術活動を労働として認識することがあまりないため、大げさに言えば24時間働けてしまいます。また、困難な状況でも意欲と努力で乗り越えようとします。しかし、文化芸術の発展と継続のためには、芸術に携わる専門家の“やりがい”に頼るのではなく、働き方に関する制度が整備されていくことが必要になるでしょう。若い人たちには、ぜひ、持続可能な舞台芸術の業界を構築して欲しいと思います。



マスター



アーティスト

人
が
人
に
と
触
れ
る
こ
と

鳴海康平

(なるみ こうへい)

准教授

舞台芸術領域 舞台プロデュースコース

音楽領域 ミュージカルコース

劇団「第七劇場」代表・演出家

民間劇場「Théâtre de Belleville」芸術監督



「かもめ」(2014・Experimental Theatre, 台湾台北市)



1979年 北海道生まれ
1999年 早稲田大学第一文学部在籍中に劇団を創設
2002年～ 制作から離れ、演出に専念
2012～13年 ポーラ美術振興財団在外研修員(フランス)としてパリを中心に活動
2014年 三重県津市美里町に拠点を移設、民間劇場 Théâtre de Belleville を開設
2015年～ 愛知県芸術劇場主催 AAF戯曲賞審査員



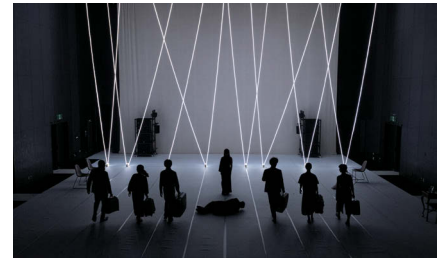
「メデア」(2022) ※2022年12月上演

新型コロナウイルスの蔓延は社会を大きく変えた。授業や打ち合わせはオンラインに、実際に人と会うことも減り、コミュニケーションは変質した。逆に動画を見る機会は増えた。これまでなら実際に見てみないとわからないようなハウツーやノウハウはYouTubeにアップされ、知識や情報の拡散速度は一段と増した。実際に会ったことのない人からSNSを通して依頼を受け、最終のアウトプットもWebで完結ということも増えた。実際にものを作るのではなく、データを制作して納品する。美術やデザイン分野に限らず、配信が主流となった音楽でも状況は変わらない。作品はパッケージ化されることはなく、データとしてのみ存在する。コロナ禍により、これらのことが進んだとも言えるが、遅かれ早かれ到来することが予想されてきた未来でもある。さて、演劇である。コロナ禍でもっとも影響を受けた領域であることは言うまでもない。演者がいて、観客がいて、一堂に会する劇場があつて、はじめて舞台は成り立つ。会うことを禁止された今だからこそ、その価値が一層重要になったようにも思われる。

「人が集まって何かをする、そこには表現の自由や多様な価値観、生き方の多様化や性の多様化も現れると思います。いろいろな人がいて、それぞれに違いがあります。もちろん自分とも違う。ネットの世界だと、ある一つのものに対してYESかNOか、その選択だけを迫る傾向があります。SNS上での炎上も、その傾向が助長しているようにも感じます。でも、実際に人と直面していると強くは言



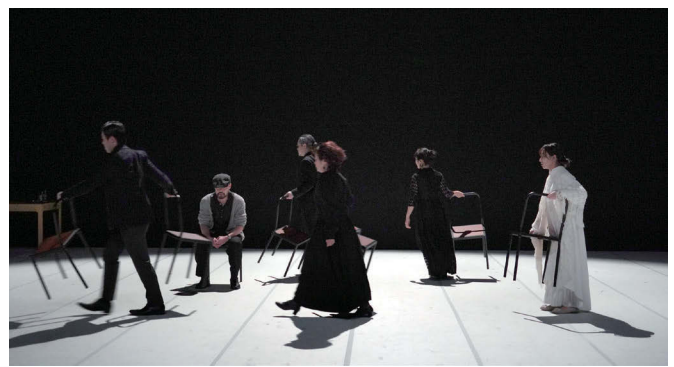
「それからの街」(2017・愛知県芸術劇場) ©松原豊



「桜の園」(2021・三重県文化会館) ©松原豊



「Toboro」(2022・名古屋芸術大学 東キャンパス3号館ホール)



「ワーニャ伯父さん」(2020・宮崎県立芸術劇場)

えません。プレーキを踏むと言うと変かもしれませんが、言葉を選んで伝える方法、プレーキとアクセルの踏み方はリアルだからこそ学べる。実際に会うことの有効な意味の一つだと考えています。

もちろん、対面することや直接人と会って話すこと、演劇を見て疑似的な体験をすることで直接的に得ることはたくさんある。でも、もっと本質的に人間が欲する事柄でもあるように感じる。レコードをアナログプレイヤーで聞いたり、フィルムで写真を撮ったりすることには、ノスタルジー以上の何かを感じているような気がしてならない。

「音楽や演技、あるいはダンスも同じだと思いますが、エンターテインメント向けの作品の場合、わかりやすい価値観が提示されます。単純に面白かったや、今回はこの前よりもちょっと微妙だった、みたいな反応が出てきます。それがもう少し価値体系が複雑な作品になってくると、あるシーンのある言葉でちょっと嫌な気分になったとしても、一緒に見た友達はそうは思わなかった、というようなことが頻繁に起こります。価値観を広げたり、共有するトレーニングとして舞台芸術は役に立つのではないかと思います。ルネサンスの時代から、演劇は社会の価値観の変化を反映させて作られてきました。社会の価値観に合わせて変わっていきますし、ときに

は社会を引っ張っていくような場合もあります。以前にくらべると演劇は多くのスタイルで上演されるようになりました。先鋭的でコンテンポラリーな作品ももちろん重要ですし、それがあからこそクラシックな作品の意義がある。いろんなアーティストがいて、さまざまなスタンスがあり、いろいろな社会と観客に接していくことができる。そのことが大きな魅力だと思います」。

舞台は見ている人によって異なるものを見ている。映像作品のように制作者によって編集されたものではなく、座る席の場所、視点の置き方は人それぞれで、観客ひとりひとりが同じ舞台でありながら違っているのが舞台である。複雑な価値体系を持つ作品であるならば、視点だけでなく見る人の知識や経験によってその解釈も異なってくる。劇場へ実際に足を運び、舞台で行われていることのどの部分を注視するか、映像作品よりも舞台は観客の能動的な参加を必要とする。さらに、鳴海作品では「見立て」が使われる。最低限の舞台装置は、シーンに応じ異なった役割を果たし、さまざまな場面を構成する。見る側の想像力が試されているようにもときには感じる。

「村上春樹さんがわかりやすい言葉で複雑な世界を書く、というようなことをおっしゃっていますが、自分でも、視点をたくさん持っている人には解釈や

見え方が広がるような舞台を作りたいと思っています。入り口としての面白さと、そこから入った先で、また違った見え方が体験できる作品を目指しています。はっきりした価値観やメッセージのある作品にひとは集まりやすいですが、メジャーではなくても出会えて良かったと思える個人的な作品が誰にでもあると思います。多様な価値観がある今の時代、私たちの作品がそういう記憶や体験の一つになればと思います」。

「人が人に触れること、子供や恋人、他人の身体や心に触れること、他人の存在を感じることで、それが苦手だという人もいいのですが、人が一緒にいて感じる満足感や安心感みたいなものがあります。これは、同じ時間同じ場所に集まって、隣に他人が座りながら見る舞台芸術の魅力と関係していると思います。根源的に人間が持っている好きな人やモノと一緒にいたいという気持ちと似ていると思うんです。舞台芸術の未来においても、社会の未来においても、その部分をもっと大切にしていかなければと思います」。

舞台に限らずすべての領域においてデジタル化が進む。その中で、どう考えてどこへ進むか、誰もが問われている。鳴海氏の言葉は、ひとつの答えのように感じる。

プレッシャーがあったほうが伸びるタイプなんです

Akkc

NUA-Student

野崎ひらり (Hillary)

(のぞき ひらり)

音楽領域

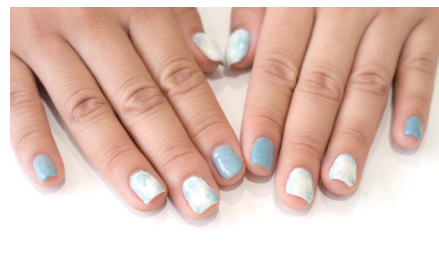
声優アクティングコース 3年

ZIP-FM ナビゲーター





ZIP-FM ナビゲーターとして活躍中
GENZ (ジェネジー) 毎週月、火 23:00 ~ 25:00
aniBuzz 毎週土 22:30 ~ 24:30



ネイルアートが趣味。「番組の中に、Hillaryおすすめのネイルレシビを紹介するコーナーがあるんですよ」

-ZIP-FMのナビゲーターなんだ! スゴイ! オーディションで? どんなふうだったの??

オーディションは去年ですね、二十歳のとき。オーディションをいっぱい紹介しているサイトがあるんですけど、たまたまそこで見つけて応募しました。一次審査が、まず自分で番組を作ってくださいという、10分くらいの番組を企画から考えて作る課題です。自己紹介を兼ねて自分の趣味について話そうと思い、それでみんなの趣味を取り上げる番組みたいなのを考えて録音して送りました。それに合格して、二次審査が、一次のときと同じ番組でもいいし、また新しく作ってもいいんですが、今度はスタジオでスタッフさんがたくさんいる前でやるんです。私は、一次のときの内容を深くして、趣味とか自分のことをメインにしゃべったんですけど、すごく緊張しました。

-すごく緊張しそうな状況。どうやって対処したの?

声優アクティングコースの授業で、声優の島本須美さん(『ルパン三世-カリオストロの城』クラリス役、『風の谷のナウシカ』ナウシカ役、『それいけ! アンパンマン』しょくぱんまん役も)がいらっちゃったときに、「緊張して上がっちゃうんですけど、どうすればいいですか?」と聞いたことがあるんです。そうしたら、「どうして緊張すると思う? 緊張しないときっていうのはめちゃくちゃ練習して自信があるときでしょう。とにかく周りのことが気にならなくなるくらい、口を開けたらポンポンしゃべれるくらいにたくさん練習しなさい。

そうしたらどれだけ緊張しても口は動いていくから練習通りにやるだけ」とアドバイスをいただいて、最終審査までそれほど時間はなかったんですけど、とにかくずっと練習、練習、練習って、学校でも友だちに聞いてもらって練習しました。

-努力家なんだねえ。声優アクティングコースはみんな頑張ってる感じがするよ!

ありがとうございます。私自身、プレッシャーとかかかっていたほうが伸びるタイプだと思ってるんです。プレッシャーがあったほうが、もっと頑張ろう頑張ろうと思えるんですよ(笑)。学生時代にデビューすることが夢だったんです。今、ありがたいことに仕事をいただくことができ、その夢は叶いました。将来は、アニメとか吹き替えとかできたらいいなって思っています。一番尊敬しているのは宮野真守さん。お笑いもできる、しゃべりもできる、歌も歌えちゃうし、ダンスもできる、オールマイティーなところがすごいなあと思います。私もなんでもできる、そういう声優を目指しています。私は笑いの部分が苦手で、話を振られても考えちゃって、無理矢理絞り出しても、しょうもなかったり。笑いのセンスを磨きたいですね。

-プロフィールを見るとバイリンガルなんだよね? インターナショナルスクールから日本の学校へってあるけど、日本の中学が良かったの?

あれは綺麗に書いてあるんですけど、本当は成績が悪くて(笑)。インターナショナルス

クールだと留年があるんですよ。なので、留年したくなくて日本の中学へ行ったというのが真相です。アメリカにいたのは3歳までで、じつはぜんぜん記憶がないんですよ。でも、インターナショナルスクールは日本語を使わない学校だったので、最低限の日本語しかわからない感じでした。ちゃんと日本語を勉強し始めたのは中学生になってからですね。

-バイリンガルだと漢字が苦手という人が多いけど、だいじょうぶ?

苦手なんです。大人のための漢字ドリルとか、小学生用のとかも買ってやっています。今も、台本をいただいたときに、最初に読めない漢字がないかチェックして、確認してから内容をしっかり読むみたいな。最初に漢字を気にしています。だから、ふだんから気を付けて本を読むようにしています。まだ速くは読めないんですけど、だんだんペースを上げていけるようにしています。ことわざとかも勉強しています。

-ちなみに、趣味の番組ってどんな内容だったの? 趣味は?

サバゲーです! サバイバルゲームが好きなんです。銃を持って、ババババってやります。趣味があるおかげでいろんな人と話す機会ができて、自分で経験していないことでも、想像して演技することにつながっていますね。話を聞いて、そういう経験のある人はそうやって考えるんだ、と自分の演技の引き出しにしています。

西キャンパスの
学生食堂が
リニューアル
オープン!

リニューアルの
コンセプトは
集い、憩い、
生み出す

名古屋芸術大学西キャンパスの学生食堂が9月19日、リニューアルオープン! ナチュラルモダンで落ち着いた雰囲気ガラッと様変わりしました。本学の東キャンパスと西キャンパスにはそれぞれに学食があり、メニューがそれぞれ違うんです! 食べたいメニューによってキャンパスを変え

るというのも良いですね。

売店ではお菓子なども販売しています。なお、現在は基本的に外部の方の一般利用はご遠慮いただいておりますが、オープンキャンパス等で開放した際にはぜひ覗いてみてくださいね。



名古屋芸大生夢サポート募金 活動状況

本学は、「学生のため」の視点を重要視し、2013年(平成25年)4月から「名古屋芸大生夢サポート募金」を開始、同年6月から専用のホームページを開設いたしました。9年目となる2021年度(令和3年度)において募金のご支援を依頼しましたところ、次のご支援をいただきましたので、その状況をお知らせします。

本募金は、学生一人ひとりが持つ夢とその可能性を引き出し、多様な社会環境の中で自信と誇りを持って、志高く社会で活躍できることを願い、8項目の中から使途を指定して寄付をすることができる募金制度です。

今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1 募集期間：2021年(令和3年)4月1日～
2022年(令和4年)3月31日

2 期間合計寄附金額：850,000円

3 寄附金の使途別状況(2022年[令和4年]3月31日現在)

(単位：円)

寄附金の使途	令和3年度 寄附金額	令和3年度 使用金額	活用状況
1 学生に対する奨学金	114,000	0	
2 音楽活動支援事業	4,000	0	
3 制作活動支援事業	4,000	0	
4 芸術的素養習熟支援事業	4,000	0	
5 子ども教育活動支援事業	4,000	0	
6 キャリア支援事業	4,000	0	
7 グローバルな学生を育成するための学生企画の支援	104,000	0	
8 その他、学生支援の充実を図る事業	612,000	199,063	ローターアクトクラブ Web会議システム購入

4 夢サポート募金対象別状況

(単位：円)

募金対象	寄附金額
1 卒業生	30,000
2 教職員・役員(退職者含む)	420,000
3 その他賛同する個人・法人・団体	400,000

5 寄附者について

令和3年度にご寄附いただいた方々は、8名、5法人です。

○ご芳名(50音順、敬称略)

〈個人〉近藤 孝司、高橋 哲司、
竹本 義明

〈法人〉株式会社亀山デザイン、
株式会社ワット、東朋テクノロジー株式会社、内外物産株式会社、富士工管株式会社

○ご芳名公表辞退

〈個人〉5名

名古屋芸大生夢サポート募金の詳細はこちらをご覧ください >>> <https://www.nua.ac.jp/yumesupport/>



表紙の写真

野崎ひらり(Hillary)

音楽領域
声優アクティングコース 3年
ZIP-FM ナビゲーター

▶ 本誌14頁
NUA-Student



発行：名古屋芸術大学
企画・編集：広報部
デザイン・協力：くまな工房一社
印刷：株式会社クックス
発行日：2022年11月7日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 広報部
〒481-8503
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
電話 0568-24-0318
FAX 0568-24-0369
E-mail: grouptu-shin@nua.ac.jp

